

平成24年1月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1	開催日	平成24年1月24日 (火曜日)		
2	開会及び閉会	開会	14時00分	
		閉会	15時00分	
3	出席委員	委員長	柳原正文	
		委員	渡辺勝志	
		委員	塩田澄子	
		委員	曾田佳代子	
		委員(教育長)	山脇健	
4	会議出席者			
	職名	氏名	職名	氏名
	教育次長	森本茂	教育次長	水野博宣
	審議監(学校教育担当)	福島治子	次長(教育企画総務課長)	大川泰栄
	学事課長	山本孝治	次長(人権教育担当)	新庄義彦
	指導課長	天野和弘	指導課人権教育担当課長	福江建二
	生涯学習課長	丸川康一	文化財課長	乗岡実
	事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主任)	柳沢つばさ
5	議題及び結果			
	報告第1号	岡山市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について		承認 原案可決
	第1号議案	平成24年度の学力・学習状況調査への対応について		
6	教育長等の報告	[平成23年12月17日(土)～平成24年1月13日(金)]		
	12/17	埋蔵文化財講座「造山古墳をめぐる」		文化財課
	12/17	八角園舎のなかよしひろば「幼稚園の先生と遊ぼう」		文化財課
	1/8	岡山市新成人の集い		生涯学習課
	1/8	岡山市ジュニアオーケストラ新年会		生涯学習課
	1/9	第38回新春子ども会かるたとり大会		生涯学習課
	1/13	いきいき学校園づくり		指導課
	渡辺委員 生涯学習課長	○ かるたとり大会とあるが、内容は全学年同じなのか。		
		○ 就学前の子どもから小学6年生まで参加するので内容は違う。一般的なかるたもあるし百人一首も行っている。		
	曾田委員	○ 新成人のつどいに出席したが、実行委員がしっかり企画していたのですべてがスムーズに行われていた。残念なことは毎年のことだと思うが、セレモニーに成人が入っていない。ブースで話をしていて会場がざわついていた。もっとセレモニーに参加してほしいと思う。		
	生涯学習課長	○ 毎年そういった状況だ。いい方法がないかと考えている。		
	委員長	○ セレモニーの時間だけでもオープンスペースをやめてみるのは。		
	生涯学習課長	○ いろいろ考えてみたいと思う。		
	塩田委員	○ 埋蔵文化財講座「造山古墳をめぐる」は何を行ったのか。		
	文化財課	○ 今千足古墳が注目されているが、この日は千足古墳そのものではなく埋蔵文化財センターという施設を知ってもらい文化財に親しんでもらうという毎年行っている事業を行った。実際のコースは備中高松駅に集まり造山古墳の本体であるとか、石室は無理だが千足古墳その他の周辺の古墳を、職員が先導して確認しながら1日文化財に親しんでもらった。		
	教育長	○ 石障の状況は。		
	文化財課	○ 今話題になっている千足古墳の石障については昨年11月末に取り外すことについて文化庁の許可がおりて、12月10日前後に石室から石障を取り外すとい		

う現地作業を行った。年が明けてから埋蔵文化財センターに運び梱包をはずして輸送時には特にそれ以上の毀損はないとの確認を行った。今後については専門家の意見を伺いながら乾燥させていく方向で様子を見ていく。話題にもなっているが、取上げた石障を観察すると側部に赤い塗料があった。当時の人が石障を作ってはめ込むときの目印と思われる。石障そのものが痛んでしまったことは大変残念なことで大きな問題であり、やむを得ず避難をしたが、そのことによって逆に当時の人がいかに石障を見せるために工夫をしたのかといった歴史的な事実が明らかになった。

## 7 議 事 の 大 要

委員長	○ 1月定例岡山市教育委員会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者は4名。傍聴を許可してよいか。
全委員	<承認>
委員長	○ 傍聴を認める。
委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第2、12月定例会の議事録に問題はないか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第3、教育長等の報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 次に会議の公開、非公開について諮る。日程第5の第2号議案は、教育事務に関する議会の議案についての市長への意見の申し出に関する事項として会議規則第9条第1項第3号に該当するため非公開としたいと思うがいかがか。
全委員	<承認>
委員長	○ 日程第4、報告第1号を説明願う。
教育研究研修センター所長	○ 説明(報告第1号)
委員長	○ 質問はないか。
委員長	○ 報告第1号を承認してよいか。
全委員	<承認>
委員長	○ 日程第5、第1号議案を説明願う。
指導課長	○ 説明(第1号議案)
渡辺委員	○ 今年度の希望利用の仕方は。
指導課長	○ テストに使用したり、授業の中で活用したり、長期休業中の課題として使用したりした。
渡辺委員	○ 問題としてはどのようなものか。
指導課長	○ 希望利用としているのは良問であるというのが大きな要因だ。良問に子ども達が接していく中で学力向上につながっていけばと考えている。
教育長	○ 全国的にも深く考えられた良い問題であると評価されている。今回理科が加わった理由は。
指導課長	○ 絶対的に理科・数学等の力を伸ばしていきたいという国の方針があるのは確かだ。国語算数だけでなく他の力もということも加わったようだ。来年度新規追加は理科なのだが、場合によっては理科の実験等の調査もしたいと国のほうは思っている。でもこれはまだまだもっと検討を要するようだ。
渡辺委員	○ 実験の調査とは。
指導課	○ まだ具体的なことは示されていない。
曾田委員	○ 試験後の活用の仕方です。中学校区で中一のデータを共通で使用して効果が上がって授業改善されているとのことだったが、授業改善の方向性は、市教委の指導主事もからんでいるのか、現場の先生だけで行っているのか。その結果授業の方向としてどういった方向の授業になってきたかとか、どうかわってきているのだとか。
指導課長	○ 岡山型小中一貫教育は従前から行っていることなので、取組み自体は大きく変わるものではないが、今年度研修会では、今までだったら教科毎に分かれているだけだったのが、同じ中学校区の小中の教員が同じグループで話し合いを行っていた。また同じ中学校区で独自に事前の話し合いを行ってきていて、この中学校区での子ども達の課題は何なのかといった具体的なことまで絞って話し合いが行っていて、そのためにはどういった取組みが必要かとか、中学校から小学校に行ってみようかとかいった話も出てきている。
委員長	○ 指導主事はかかわっているのか。
指導課長	○ 指導主事は岡山型一貫教育でこれまでもそれぞれの事業改善に向けていきいき

学校園づくり等で取組んでいるので、その延長線上として行っていることと、教育課程の改変期であるので、教育課程の説明会等でもそういったことも含めて話をしていく。

塩田委員  
指導課長

- 抽出校での結果の活用は。
- 抽出というのは市内で抽出を行うのではなく県単位で選ぶので、岡山市は大規模の学校に偏って抽出されていて、年によって選ばれる校数も違うので単純には市のレベルでは比べられない。国のほうも抽出方式にしてデータとして比べられるのは県レベルだと説明している。

塩田委員  
指導課長

- 選ばれた抽出校では結果に基づいて改善を行っているのか。
- 中学校一年生ではなく、小学校中学校それぞれ最後の部分なのでどの程度が理解できているかといったことがわかる。全国の平均もわかるので、その比較でどこが弱いのかといったことが学校レベルでわかる。それに対して学校が具体的にどういった努力をしているのかといったことまでは把握できていない。

委員長  
指導課長

- 平成24年度の市内の抽出校の数は。
- 平成24年度の抽出校については、最終的なものではないが小学校25校、中学校17校になっている。

委員長  
指導課長  
渡辺委員  
指導課長

- 抽出率については小中にばらつきがあるか。
- ある。参考に平成23年度は小学校26校、中学校24校だった。
- 学校の負担について今年度学校からどういった声が上がってきたか。
- 一昨年度あたりは相当いろいろな声があったが、昨年度は希望利用の方向等を学校で決めたので、校長ぐらいまでには届いているかもしれないが、市教委に直接そういった声は届いていない。ただ先般参考で送付したように、本テストについてテストそのものを中止してはどうかとか、抽出校以外にテストを押し付けないようとか、意見を学校から十分に聞くようにといった要望書が2つの団体から出てきている。

曾田委員  
指導課長

- 希望利用の学校は、選ばれてサンプリングの対象となった学校と比べて効果とかデメリットはどうなっているのか。
- 抽出校と希望校を単純に比較できない。具体的にいうと採点基準等がどうしても違ってしまふ。基準は示されているが、少しずつしてしまうという面が出てくるので、比較という点では難しくなる。ただ希望利用であっても良問に触れるという機会は与えられるので、そういった面ではプラスになっていると考える。

委員長

- 特に質問がないようなので、全国学力・学習状況調査への対応について各委員それぞれの考えをいただきたい。

曾田委員

- 良問であるということに全く同感だ。特にB問題を見ると、悉皆の頃から今も含めて、私の立場で言うと授業で大学生にも使っているほどのものだ。こんな問題は、現場の教員はなかなか考える暇がないと思う。尚且つこれはたぶん基礎学力もいるだろうが、これから世の中でやっていくのは、今出来る子か出来ない子かでは決められない力があると思っている。そういう意味で、B問題に触れられるチャンスがあるのはとても良いことだと思う。また教員の場合もそういう力が世の中に出たときに役に立つのだろうということが体感できるので、行うことは良いことだと思う。ただ国がふらふらしているのは教員にとっても児童生徒にとってもとても疑問が残ることだ。それに一喜一憂して、するかしないかとか、希望校であるとか抽出校であるとかは抜きにして活用し、次にどう授業改善し、子ども達の自尊心に、本当は学校のテストだけでなくこういったものが必要なんだといったことを。学校のテストも変わってはきているが、あのB問題を作るのは難儀だと感じているので、活用ということで、アフターフォローを大事に状況調査も含めて、お仕着せの問題ととらえずに積極的に活用したらよいと思う。

塩田委員

- 教育はいろんな方面から評価されないといけないので、さまざまな評価方法があつて良いと思う。学習成果に対する教育効果を客観的に見るという点で、こういった学力テストの結果というのはひとつの有効な手段ではないかと考える。数字そのものでとらえると問題があつて、いろいろなことが指摘されているわけだが、目安にはなる。数字を見て一喜一憂するのではなく、授業改善であるとか、継続していけばよい点であるとか、そういったことを冷静に見極めて、クラスの中だと担任の先生がそれを感じ取り、市教委の中だったら岡山市全体においてそういったものを今後の教育に活用していけば良いと考える。今年度の希望利用に関して聞くと、批判は上がってなかったということなので、任せるといった形が功を奏していると思う。またいろいろな問題があつて、教員が子ども達と接する時間を長くしようといった流れの中で、岡山市から課題を出すというのは流れにも逆行することになる。そういったことでも先生方が自らの意思で活用するというのは非常に良いと思う。

渡辺委員

○ 本来なら、従来行っていたように全国学力・学習調査も悉皆でやって欲しいが抽出ということなので、今年度の利用の形を見ると、授業の中で活用するとか、宿題に活用するとか、自由な形でいろんな活用法が出来ている。希望利用は、後に生かすというのが一番大事で、その方向で利用が出来ている。教科については県の様に理科・社会があっても良いと思うが、理科も新しく加わるので、これもまた活用するチャンスだと思う。小6と中3なので三年後の結果が良くわかると思う。厳密に言うと母体が全く同じではないが、ほぼ同じととらえて追跡調査ができる。継続することが良いと思うので、今年度も抽出に協力すればよい。

教育長

○ 全国のものに限っていえば、当初から悉皆であったので、悉皆という中で当然国もデータを得ようとしてきて、市としてもデータを取り、学校に還元といった流れの中でやってきた。そのデータによって、今の学校の現状から授業改善に結び付けていく活用の仕方を行ってきた。やはり悉皆であるべきだというのが基本的にはあると思うが、国がこういった状況なので、国の調査については協力という形ぐらいしか取れない。抽出校については協力し、希望校については問題自体にあたっていく。いわゆる知的な部分だけではなく、学習したものを組み合わせないと解けないような問題となっていて、よく言われる意欲はどう見えるのかというようなことも含めて、広い学力というとらえ方の中でこの良い問題にあたって行って、そしていろいろ考える力、いわゆる読解力、広い意味で思考力を伸ばしていき、自分はどういうところが良いところかといったことも含めてそれを学校として利用して行ってもらいたい。それに比べて、岡山県のは悉皆で行うので、しっかりデータを取っていくといったことを考えている。

委員長

○ 学習状況調査の方で何かコメントはあるか。

教育長

○ 岡山の子どもの特徴が出てきている点がある。数的に高いところをどう伸ばしていくかという課題もあり、子ども達の生活自体を立て直さなければいけないようなデータも得られている。

曾田委員

○ 個表が帰ってくることに意味があると思う。家庭ばかりに目が行くと大変になるが、ある程度子どもがわかる発達段階にいる場合、自分で早寝早起きをしなければならないとか、読書をしなければならないとか、テレビの時間がどうだとかをコントロールできる点で状況調査のほうも役立つ。先ほどの学力状況調査のことだが、なぜ現場が問題を作れないかという、教科を横断しているからだ。生きて働く力、思考力を含める教科横断型の問題を作ろうと思ったら、ものすごく難儀なことだと思う。そういった意味での良問であると付け加える。

委員長

○ 教育委員会としてどう考えて実施するのかといった意見は。

教育長

○ 点数がどうだ全国でどうだということになるとだめになる。

塩田委員

○ 全体とどうであるということではなく個々だと思う。改善の必要になるところや伸ばしていけばよいところの目安にはなる。ただ、悉皆ではなく抽出となるとそのあたりは難しくなるが、個々にクラスの中でやってみてどういった感じかということとはわかる。

委員長

○ 教育現場での役立て方ということで、学校が自主的に利用の仕方を決定していくというやり方をとったことで、狙いどおり先生が使いやすくなっている。

塩田委員

○ 市で学校支援プランを作ることは、今の感じの抽出では難しい。

教育長

○ 以前のような悉皆のデータがベースになって、いきいき学校園づくりとか、幼小中連携とか、研修会をやって行って、その中でしっかり子どもの実態を見つめてやっていくという動きに数年前からなっている。今はいきいきの中でも小中の学校が行き来している。そしてひとつのテーマを持って、研修会で話し合いを持っている。それが国または県のデータを利用しながらという形になっている。

指導課長

○ いきいき学校園づくりは、中学校区で相談して中学校区の子ども達をどういう風に育てていくのかというもので、ある程度中学校区の目標を持って、一貫して行っている。小中の行き来が頻繁に行われるようになって、いいところを取り込んだりする機会になっている。

委員長

○ 県の悉皆調査に協力することについては。

曾田委員

○ 県も良問が多い。岡山市としては悉皆のほうがデータのほうに公平な感じがする。尚且つ、岡山市らしさでいえば、幼小中がつながっていることで、教科ごとで集まるのではなく、小中がグループごとで集まり、何かテーマを決めて集まって、改善につなげるというのは、やはりこれくらいの教科で悉皆でやると根拠がしっかりするのかなと思う。両方行うのはどうかと思うが、国が不安定な中、県のほうの良い問題が出来ればと思い、活用すれば良いと思う。

塩田委員

○ もちろん県のほうは、悉皆で岡山市が抜けてしまうと、半分が岡山市なのでデータの意味がなくなってしまう。経年的変化というものが大切になるので、全国みたいに揺らがない、県がこれからデータを積み上げていくという、芯を通す形で

渡辺委員 指導課長 渡辺委員	やっていただきたいと思います。 ○ 県の悉皆は県立も対象なのか。 ○ 県立学校は対象となっている。岡大附属と私立は入っていない。 ○ 県については、小学校に行っていた子がそのまま中学にというわけではなく、全くのイコールではないが、県立も含めた形でデータが取れる。社会もちゃんと入っている。国のほうの施策で理科系をとすることはわかるが、やはり社会の知識というものが必要になると思う。どれだけ身に付けて中学校に来ているのかもみていかないといけない。岡山市が抜けるとデータに無理が出てくるので、調査に協力をせざるを得ないと思う。中学校入学時に点数が云々ではなく、どういう問題が出来て、どういった問題が苦手なのか、傾向を把握するのが大事だ。
教育長	○ 国がこんな状態だから先程言ったデータをしっかりとることについて、協力というより、市としては活用したいという思いがある。
委員長 指導課長 委員長	○ 県のデータのフィードバックはいつ頃。 ○ 去年は6月頃には学校に結果が返ってきた。 ○ 年度内で活用できる。基本的には子どもの達成度を評価し、その評価というのは満足できる部分と改善する部分を明らかにするというので、そのことがひいては授業改善になり子ども達に帰ってくるというように、本来の目的に沿って実施されるべきである。その限りにおいて賛成であるということでもよろしいか。私は基本的には皆さんがいったとおりだが、やはり将来的には県のほうに協力ということではなく市も一緒になって共同で実施するという姿勢でやって欲しい。市独自でやってもいいが県と市と母体は大きいほどいいと思うので、共同で実施していくというのが現実的であると思う。つまりもっと積極的にということ。国がこんなことでは当てにならないという思いが私自身ある。
委員長 全委員 委員長	○ 第1号議案を原案どおり可決してよいか。 <承認> ○ 第1号議案を原案どおり可決する。

傍 聴 の 状 況		
報 一	道 般	1 名 3 名

平成24年1月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成24年1月24日（火曜日）		
2 開会及び閉会	開会	15時00分	
	閉会	15時25分	
3 出席委員	委員長	柳原正文	
	委員	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員（教育長）	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	森本茂	教育次長	水野博宣
審議監（学校教育担当）	福島治子	次長（教育企画総務課長）	大川泰栄
文化財課長	乗岡実	事務局（教育企画総務課課長補佐）	高木宏
5 議題及び結果			
第2号議案	市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について		原案可決